



～自分で考え 友達と一緒に活動し 振り返りのできる子～

# 学校だより 5月

令和4年4月28日

荒川区立

峡田小学校

校長 津田 利枝

## 薫風 百花繚乱の5月

校長 津田 利枝

まばゆい陽光、やわらかな風、若葉と色とりどりの花々。気持ちの良い季節を迎えています。中でも強い生命力を感じさせる黄色いたんぽぽ、ふんわり綿毛のたんぽぽに目をひかれます。これを見ると、この詩をつぶやきたくなります。担任時代に子供たちと必ず読んでいた詩です。

たんぽぽ

かわさきひろし

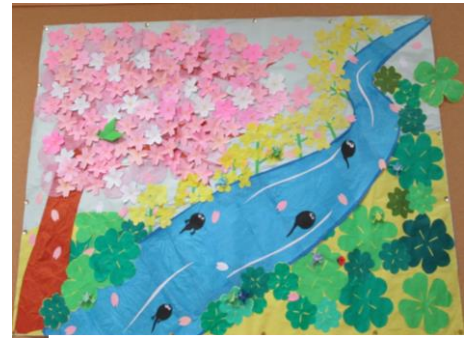
たんぽぽが たくさんとんでいく

ひとつひとつ みんな 名まえがあるんだ

おーい たぽんぽ おーい ぽぽんた

おーい ぽんたぽ おーい ぽたぽん

川におちるな



学校図書館5月の掲示 (はけた DREAMS 製作)

飛んでいく綿毛に名前をつけて、愛情たっぷりに呼びかける楽しい詩です。そして、2年生の国語の教科書に載っている『たんぽぽのちえ』(植村利夫作)長い間、読み継がれている説明文です。私が、たんぽぽに目をひかれるようになったのは、この文章に出会ってからです。

春になると、たんぽぽの黄色いきれいな花がさきます。二、三日たつとその花は、しぼんでだんだんくろっぽい色にかわっていきます。そうして、たんぽぽの花のじくは、ぐったりとじめんにおれてしまいます。けれども、たんぽぽはかれてしまったのではありません。花とじくをしずかに休ませて、たねに、たくさんのおえいようをおくっているのです。こうして、たんぽぽはたねを太らせるのです。やがて、花は、すっかりかれて、そのあとに白いわた毛ができてきます。このわた毛の一つ一つはひろがるとらっかさんのようになります。たんぽぽはこのわた毛についているたねをふわふわととばすのです。このころになるとそれまでたおれていた花のじくがまた、おき上がります。そうして、せのびをするようにぐんぐんのびていきます。なぜ、こんなことをするのでしょうか。それは・・・・・・後略

授業では、順序を表す言葉や文末表現など言葉に注目して、話の内容を読み取る力を育てます。大事なことは、この後になります。「たんぽぽっておもしろいな、すごいな、ふしぎだな」と感じた気持ち、学習



して身に付けた読み取り方をもとに「もっとたんぽぽの本を読みたいな、ほかの植物にも知恵があるのか調べてみようかな」と思って、本を手にとることで。もちろん、今は、実物のタンポポをいくらかでも手に取る事ができる最高の時期！ぜひ、『たんぽぽのちえ』を読んだら原っぱへ！

家読(うちどく)の取組について、別紙にてお願いをいたしました。子どもを中心に家族で同じ本を読み、読書を通じて家族のコミュニケーションを深めることを目的としています。各ご家庭で、「家読」のスタイルを見つけていただき、連休明けに取組をご紹介いただけたら幸いです。